

こころの見守り隊推進事業～ゲートキーパー～養成講座【岐阜県】

(実施主体) 岐阜県精神保健福祉センター

(基金事業メニュー) 強化モデル事業

(実施期間) 平成 23 年度～24 年度

(実績額) 平成 23 年度 5,841 千円

〔事業の背景・必要性・目的〕

岐阜県の自殺者数は平成 10 年以降 500 人前後を推移している。公表されている直近データの全国順位は下位であるものの毎日 1 人以上の方々が自ら命を絶つという不幸な状況が続いている。

当県ではこのような状況を打開するため、平成 20 年度に岐阜県自殺総合対策行動計画を定め、平成 28 年までに県内の自殺死亡者数を 396 人以下にするという数値目標を定めた。

しかし、もはや行政サイドからの一方的な対策だけでは限界があるため、今年度、新たな取組として、県民が主体となりお互い見守りあっていくという県民パワーの活用に着目した事業を展開することとした。

(岐阜県における自殺者の状況：厚労省人口動態統計)

＜自殺者数＞	＜自殺死亡率（人口 10 万対）（全国順位）＞
平成 19 年→446 名	21.7 (39 位)
平成 20 年→466 名	22.7 (31 位)
平成 21 年→473 名	23.1 (33 位)
平成 22 年→426 名	20.8 (42 位)

〔事業の内容〕

「県民パワーの活用」とは、県民自身がゲートキーパーとなってもらうことであり、すなわち家庭、職場、地域それぞれの環境で、また普段の生活の中で”うつ”が疑われる人などに接したとき、一声かけて専門医に繋げてもらうことが役目と考える。従って、決して深い専門知識の勉強まで要求されるものではなく、見守りのための必要最小限の知識を習得してもらうことを目的とし、県下 5 会場で養成講座を開催した。

講座の内容は次のとおりとした。

- 開催日： 平成 23 年 10 月 24 日（月） 大垣市スイトピアセンター
- 平成 23 年 11 月 24 日（木） 美濃加茂市文化会館
- 平成 23 年 12 月 22 日（木） 下呂交流会館
- 平成 24 年 1 月 25 日（水） 土岐市文化プラザ
- 平成 24 年 2 月 16 日（木） 岐阜県図書館

○内 容：＜第 1 部 講演会＞ 13：00～14：20

（講演者） 茂 幸雄氏（NPO 法人 心に響く文集・編集局 代表理事）

※ 茂氏の講演の中では同じ活動仲間の自死遺族の方の話も含まれている。

（演 題） 「東尋坊～命の灯台守」

＜ワンポイント講座＞ 14：20～14：35

早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する取組

(内閣府DVD上映) 「こころのサインに気づいたら」

<第2部 研修会> 14:45~16:00

(講師) 精神保健福祉協会の会員である精神科病院の精神科医師

※ 講演会はどの会場も同じ講演者で通したが、研修会の講師は基本的に各会場の地元の医師が講師を勤めた。

<その他> 講座の最後に修了証とハンドブックを配布した。

○趣 旨

- ① 講演会→講座参加者に、自殺防止とそのために見守りが大切であることを認識してもらう。
- ② 研修会→自殺に大きく関わっているとされる”うつ”の基礎知識を学んでもらう。
- ③ 内閣府作成DVD上映
→ ”うつ”の疑われる人などに対する接し方を理解してもらう。
- ④ その他→参加者にゲートキーパーとしての自覚を持ってもらう。

〔事業実施に当たっての運営体制等〕

本事業の企画・運営は、精神保健福祉センターから精神保健福祉協会への委託により実施した。

協会に委託した理由は、協会には県内の精神科病院も会員となっているため、会員の中から講師陣を手配することが容易であること、また、講座の開催場所は県内5箇所ですべて開催する計画であったため、県下各地域に会員が在住している協会は、どの会場でも運営要員の確保が容易であることなどが挙げられる。

協会の運営体制は、会長、事務局及び5名の役員で構成される実行委員会が核となり、講座開催当日は、地元協会会員が一丸となって、事業進行、会場の受付、講師対応など役割分担のうえ行った。

〔事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点〕

<事業の成果>

- ① ゲートキーパー養成の事前の目標は、各会場 200 名、5会場 1,000 名であったが、結果は 959 名とほぼ目標を達成できたと考えている。
(内訳) 岐阜会場 281 名、大垣会場 128 名、美濃加茂会場 141 名、
土岐会場 304 名、下呂会場 105 名
- ② アンケートで、スキルアップ講座（更に深く理解してもらうための勉強会）への参加希望を確認したところ、全参加者の半数を超える 537 名から希望があり、自殺予防やそれに深く関わる”うつ”への関心の高さをうかがうことができ、来年度通常のゲートキーパー養成とともに、自殺予防に意欲的な県民を対象としたスキルアップ講座の開催についても見通しをたてることができた。

早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する取組

<工夫をした点>

講座内容の企画とともに、参加者の確保も重要と考え広報にも力を入れた。

まず、人と接する機会の多い職業に携わる県民の参加を呼び込むため、組織的な協力依頼として、県理容生活衛生同業組合、県美容業環境衛生同業組合、県旅館ホテル生活衛生同業組合及び各地区の商工会議所に、各本部から支部へのチラシ配布を依頼した。

また、民生委員の参加する会議でのチラシ配布、各種団体の役員会等における説明、地元住民の目に触れる自治会の回覧板で周知も行い効果的であった。

<その他特筆すべき点>

本事業の自殺予防という趣旨に県仏教会が強い共感を示し、組織的に各支部の寺院に働きかけ各会場とも多くの宗教関係者や檀家の人々が参加された。



(講座風景)



(修了証の交付風景)

(問合せ先) 岐阜県精神保健福祉センター

TEL:058-273-1111(内線 2254)

E-mail:c22606@pref.gifu.lg.jp

URL : <http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/seishin-center/>